

中村元 慈しみの心

山陰中央新報（総合）

中村元 慈しみの心

No.647

女におぼれ、酒に浸り、賭博に耽り、得るにしたがつて、得たものをそのたびごとに失う人がいる。―これは破滅への門である。
(釈迦)

△解説▽わが国では「飲む、打つ、買う」と言え、大酒を飲み、博打を打ち、女を買うという男が道楽の限りを尽くすことを言うが、なかにはこれを遊び人の勲章という人がいる。この人はまとまった金が入るとすぐに使いきる。道楽が道楽となり、身の破滅が落ち。

田上太秀・駒澤大名誉教授

2017.8.26 中村元記念館協力

中村元 慈しみの心

No.646

尊敬と謙遜と満足と時に教えを聞くこと、―これがこよなき幸せである。
(釈迦)

△解説▽日頃の生活では、行いと心と言葉を慎み、なにごとにも控えめに振る舞い、くだらないことに不満を抱かないことが大切である。さらに忘れてはならないことは、時には賢者の話を聞いて、心を養うことである。これらのことをこころがけるならば、この上ない幸せがえられるという。

田上太秀・駒澤大名誉教授

2017.8.25 中村元記念館協力

中村元 慈しみの心

No.649

夫は五つの仕方て妻に奉仕すべきである。尊敬する。軽蔑しない。道から外れない。権威を与える。装飾品を与える。
(釈迦)

△解説▽神に対するように妻を尊敬すること。軽蔑する言葉や考えをもたないこと、不倫をしないこと、すべて家事について文句をいわないこと、そして時々アクセサリーを買ってあげること。これが夫婦円満のもとだと教えている。納得できぬという前に実行してみてはどうか。

田上太秀・駒澤大名誉教授

2017.8.28 中村元記念館協力

中村元 慈しみの心

No.648

己の妻に満足せず、遊び女に交わり、他人の妻に交わる、―これは破滅への門である。
(釈迦)

△解説▽「浮気者」「浮かれ鳥」という言葉がある。なにか快楽を求め、夜間にうろつき回り、異性を求めて歩き回る者をいう。この言葉は男性の場合であるが、今日は女性も夫以外の男性と交わり、浮気したり不倫したりしている。夫婦の倫理がなくなっている。いずれそのような家庭は破滅するだろう。

田上太秀・駒澤大名誉教授

2017.8.27 中村元記念館協力

中村元 慈しみの心

山陰中央新報（総合）

中村元 慈しみの心

No.651

この世において生まれや姓や家の地位は取るにたらぬものであり、道徳だけが最上のものである。（釈迦）

△解説▽世間では身分や職業を問うことがある。名前や家柄などをかざして人を差別する風潮がある。昔大名でも今では唯の人ではないか。「生まれをたずねるな。行いをたずねよ」とも教える。人にとって大事なものは多くの善行を積むことである。その徳は死後、天界への道連れであるから。

田上太秀・駒澤大名普教授

2017.8.30 中村元記念館協力

中村元 慈しみの心

No.650

一個人の命は、その人だけのものではない。自殺することは、その人がそれまで生きてくるのを助けてくれた人々の恩や厚意を殺してしまうことになる。（中村元）

△解説▽いじめや過労が原因で自殺する人がいるが、己の命を己のものと考えてはいけない。それまでどれほど多くの人の助けを受けたか、その恩を忘れてはならない。「袖振り合うも他生の縁」とは人はみな過去の人々と結び付いていることをいふ。もらった命は尽きるまで守るべきだ。

田上太秀・駒澤大名普教授

2017.8.29 中村元記念館協力

中村元 慈しみの心

No.652

礼は夫婦を慎むに始まる。（『礼記』）

△解説▽「親しき仲にも礼儀あり」という。その典型が夫婦であろう。職場も家庭も礼儀が基本であって、その中心が夫婦の礼である。『礼記』では人間社会の礼は、夫婦の礼が基本という。つまり日常生活に必要な礼は夫婦の礼から始まるというわけである。また一方で、人のしつけの第一歩は食事の作法から始まることも教えている。夫婦の礼と食事の作法が社会の礼の基本であることを銘記しよう。

田上太秀・駒澤大名普教授

2017.8.31 中村元記念館協力